

会長ごあいさつ ～ニュースレター第10号発行に寄せて～

日頃から、会員の皆様には、当協会の運営にご協力いただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

昨年の総会に於いて、酒瀬川前会長から会長を引き継ぐことになりました。当協会は、平成4年の設立以来、歴代会長ほか多くの皆様のご努力により、駐日英国大使によるご講演や英国関連の講演会、エッセイコンテスト、更に青年部による Bimonthly イベント等活発な活動が行われてきました。これからもこれらの活動を継続しながら、鹿児島と英国の文化交流の活発化に貢献できるよう活動をして参ります。

昨年度は、第2回エッセイコンテストが行われ、英国への思いや関わりが綴られた素晴らしい作品を多数応募いただきました。今号では、その表彰作品を掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

また、昨年12月には、初めての企画として、英国に関わる映画鑑賞会を開催しました。英国によるインド統治の最後の姿を描いた見事なドラマでした。ご案内の期間が短かったことが反省点でしたが、鑑賞いただいた方には、ご満足をいただいたようでした。今後も、同様な機会を設けて参ります。

更に、3月には英国研究の専門家をお招きしての講演会を準備中ですので、楽しみにしていただければと存じます。

今後とも、当協会への変わらぬご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

鹿児島日英協会会長 島津公保



目次

- ① 平成30年度 第1回理事会、第27回総会・懇親会のご報告・・・P.2-3
- ② 第2回エッセイコンテスト最優秀作品のご紹介・・・・・・・・・・P.4-6
- ③ 協会主催英国映画鑑賞会のご報告・・・・・・・・・・・・・・P.6-7
- ④ 本年度のイベント予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.7
- ⑤ イギリスひとくちメモ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.8

① 平成30年度 第1回理事会、第27回総会・懇親会のご報告

日時：平成30年10月27日（土）

会場：鹿児島サンロイヤルホテル（鹿児島市与次郎1-8-10）

総会に先立ち理事会が開催され、当協会の平成29年度の事業報告内容、収支決算、監査結果のご報告がなされ、また、平成30年度の事業計画案、予算案、理事役員変更についても承認いただきました。

本年度の総会では、第27回鹿児島日英協会総会資料にもございますが、理事役員に変更がございました。退任されたのは、前会長酒瀬川純行様、前理事入部兼一郎様、前理事石井祥様、前理事（青年部副会長）神田浩之様です。なお、前会長酒瀬川純行様には引き続き理事としてご活躍いただきます。また、新しく就任されたのは、新会長島津公保様、新理事岩元修士様、新理事中村博之様、新理事東清三郎様、新理事（青年部副会長）鳥丸拓人様です。さらに本年度は新しい映画鑑賞イベントの案が出まして、12月に実施いたしました。参加くださった皆様ありがとうございました。前ページの『会長ごあいさつ』にもございますが、今後も引き続き実施していけたらと存じますので、皆様のご協力の程をお願い申し上げます。

	前役員	新役員
会 長	酒瀬川 純行	島津 公保
副会長	永田 行博	永田 行博
	上山 達典	上山 達典
理 事	入部 兼一郎	酒瀬川 純行
	鎌田 善政	鎌田 善政
	古木 圭介	古木 圭介
	吉村 千鶴子	吉村 千鶴子
	松尾 千歳	松尾 千歳
	石井 祥	中野 寿康 ※
	中村 耕治 ※	村田 長芳
	村田 長芳	岩下 雅子
	岩下 雅子	鹿島 友義
	島津 公保	岩元 修士
	鹿島 友義	中村 博之
	狩所 貴久（青年部会長）	東 清三郎
	神田 浩之（青年部副会長）	狩所 貴久（青年部会長）
		鳥丸 拓人（青年部副会長）
監 事	塩倉 宏	塩倉 宏
事務局長	鶴田 悠里子	鶴田 悠里子

※株式会社南日本放送の社長交代に伴い、理事が交代となりました。

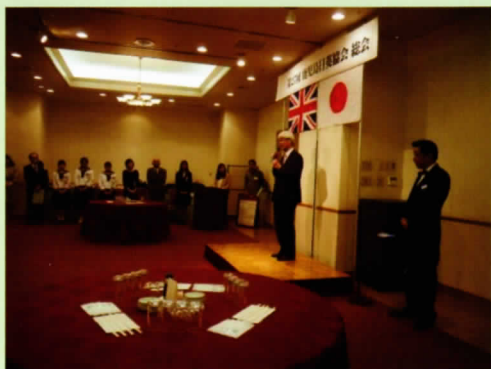
また、総会の後半では平成29年度に行われました『第2回 エッセイコンテスト』の表彰式が行われました。表彰式では英語の部と日本語の部、それぞれ最優秀賞、優秀賞、奨励賞を受賞された9名の方々にいただきました。



授賞式も含めました総会に引き続きまして、酒瀬川前会長による『イギリスこのごろ』の講演会となりました。講演ではイギリスの王室文化からBrexit、経済や政治、そして英国の文化についてお話しいただきました。講演終了後の質疑応答の時間では会場内から積極的に質問がなされました。

続いて懇親会となりました。島津新会長の挨拶の後、第2回エッセイコンテストに関する講評を永田副会長よりいただき、続いて受賞者の皆様よりショートスピーチをいただきました。授賞についての喜びの気持ちや、イギリスについての熱い気持ちをお話しいただきました。懇親会中に理事を退任される石井様より、そして新しく理事に就任される中村様よりご挨拶をいただきました。新しい体制で今後もよりよい日英関係を築くために邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(事務局 鶴田悠里子)



② 第2回エッセイコンテスト最優秀作品のご紹介

さて、2ページにもございますが前年度に引き続きまして、昨年度に協会主催で『第2回 エッセイコンテスト』を開催いたしました。2回目の開催ということもあり、22名のご応募がありました。なかでも鹿児島県立甲南高校からは、学内選抜でイギリスへの海外派遣を行っていらっしゃるということもあり、7名の応募をいただきました。ここでは英語の部・日本語の部それぞれの最優秀作品を掲載いたします。

【英語の部】上床 蘭 様

English is a tool to communicate with people from different countries. This is a lesson I learned from my experience.

In March of this year (2018), I had an opportunity to visit the United Kingdom for a school project. During our 10 days there, my classmates and I got numerous opportunities to learn about different history, culture, and realize the importance of English.

This was not my first time abroad. When I was 11 years, I went to Singapore. During the trip, however, I had few chances to speak English. I wanted to talk with people in English because I had been learning English since I was 7 years old. However, I did not have the courage to say more than “Hello” or “Thank you” during that trip.

This time, at 17 years old, I had decided on some targets for my next experience abroad. One of them was that I wanted to try my English skills. I was very interested in how well I could communicate with people in English. However, I was a little nervous because I was staying with a British family for the first time.

At first, I was confused when I heard British English. I had known that there were differences between British English and American English. However, when I actually heard the pronunciation of British English people, I felt that it was a little difficult to catch what they said because most Japanese students usually listen to American English. I was not used to hearing British English, so I often could not understand what the locals said. On the other hand, I was very interested in this because I had also made the target to learn the differences of English in different countries.

One day during the trip, my friend and I came across some trouble when we were shopping. When we paid at a self-checkout and tried to leave the store, a female shop assistant spoke to us. The woman claimed that my friend owed 3 pounds. I could not understand the situation, so I asked the woman to explain more. However, I could not catch her English. The woman only said the same thing repeatedly and did not let us leave the store. While we could not grasp the meaning of her story, my friend paid 3 pounds. Fortunately, we met our teacher and returned to the store together. Our teacher explained the situation to another shop assistant and it turned out to be a misunderstanding of the shop assistant. A male shop assistant returned 3 pounds and apologized to my friend, and the situation settled down. I was a little disappointed that I could not insist to the staff that she was mistaken and solve the trouble myself. But

at that time, I realized the power of a language. I truly thought that it is a great thing. I felt that I saw the essence of the language.

Later, I got a similar impression when I had a chance to talk with Oxford University students. I was very surprised to see that people from many countries were participating in the activities. It was the first time for me to talk with people from different countries like the UK, America, Korea, Russia, and Germany at the same time. I gave a presentation in English and got some advice from university students. I was pleased when I could discuss some issues with them.

During those 10 days, I met and talked with many kinds of people. Even though our nationalities are different, we can communicate and deepen our mutual understanding by speaking the same language. I think this is a wonderful thing because it gives us confidence. Also, I realized that it is not easy to make verbal communication. Now, I have a goal for my future. I want to improve my English skills and challenge myself to learn a lot of languages. I hope I can get more excitement by communicating with foreigners.

【日本語の部】玉利 智佳子 様

『多彩な文化が息づくイギリスで学んだこと』

イギリスへ実際に行って私が感じたこと、それはイギリスが伝統と革新とが融合する多文化共生社会であるということだ。英国と言えば格式やしきたりを重んじ、どちらかといえば保守的だというイメージを持っていたのだが、2年間現地で過ごして、むしろその対極の進取の気風も様々な面で感じられた。

私が初めて渡英したのは4年前。国際ビジネスの学士課程に入った。大学はイギリス人学生だけでなく広く世界に門戸を開き、教授や学生の国際交流に積極的だ。勿論、修学のために必要な最低限の英語スキルや財政基盤は、留学ビザ習得の必須条件として政府が設けてはいるが、学際分野における人的交流に対する国のポジティブな姿勢が、イギリスの大学が多分野で世界をリードする所以であることは間違いないだろう。様々な背景や価値観を持ったクラスメートと一緒に講義やセミナーは、常に新たな発見やより深く広い議論に溢れていた。「英語が母国じゃないから」「留学生だから」という分け隔ては一切ない。それは私にとって始めは苦しくプレッシャーでもあったが、後の大きなモチベーションや次のステップへの自身へと繋がった。

そしてその1年後、私は再びイギリスに渡り、国際観光学の修士課程へ入学した。世界の観光学を牽引する著名な教授の元での研究。世界有数の観光先進国イギリスでは研究が活発で、ヨーロッパ内の外の観光先進地でのフィールドワークの機会も得られた。そしてやはり、世界各地から集まる、多様なバックグラウンドを持った仲間と一緒に研究が出来たのは最高の宝だ。修士以上のレベルになると、1度社会に出て一定期間働いた後に、スキルアップのために大学に戻って研究する人もイギリスでは非常に多い。また観光学という学問域の性質上、学生の出身分野も経営学や地理学、経済学や人類科学など多岐に渡っていた。年齢、性別、学歴、経験、国籍が全く異なる研究仲間たち。彼らと互いの経験や考えを共有し、ディスカッションを繰り返すことで、自分の研究そして価値観を見直し、発展させるきっかけを沢山得られた。学士レベルとは桁違いの専門性や高度な学際スキルも求められたため、毎日がまさに真剣勝負。大変厳しい1年間ではあったが、その分やりがいや楽しさもひとしおだった。

また、大学以外でも様々なコミュニティを通じていろんな人と出会えた。多民族国家で異文化や新しいものを受け入れやすいイギリスには、実に様々な人が共存している。イギリス英語や伝統、マナーに関するこだわりが強いイギリス人の友人からは英国文化をたくさん教わった。しかしそれだけではなく、それまで自分が知らなかった新たな価値観に触れられた。お蔭で私のものの見方や考え方は大きく広がり、それに伴って世界の見え方が変わった。人生が変わった。

古き良きものを大切に継承し続けると同時に、常に最先端のものを取り入れる柔軟性がイギリスにはある。不易流行という言葉が実にぴったりで、だからこそ多種多様な人間が共生する現代社会で常に世界をリードする力が、多くの人々を惹きつける魅力がある。国際的な観光地として成功しているのも、海外からの客のニーズへの対応するための異文化への理解が社会基盤としてあるからだろう。

現在私は、地元鹿児島で観光に関わる仕事に携わっている。観光立国としての歴史の長いイギリスからすると未だ観光振興国である日本だが、これから大きく成長できるポテンシャルとチャンスはきっとあると信じている。私の尊敬する「薩摩スチューデント」の大先輩たちのように、イギリスでの先進事例から学び吸収したことを活かし、日本の観光産業の発展に貢献できるよう、これから一層精進したい。

③ 協会主催『英国映画鑑賞会』のご報告

日時：平成30年12月9日（日）15時05分～

会場：マルヤガーデンズ内ガーデンズシネマ（鹿児島市呉服町6-5）



鹿児島日英協会主催

英国映画鑑賞会

～英国総督 最後の家～

<p>日時</p> <p>2018年12月9日(日)</p> <p>15:05～(受付 14:35～)</p>	<p>場所</p> <p>マルヤガーデンズ 7F ガーデンズシネマ (鹿児島市呉服町6-5)</p>
--	---

参加費 1,000円(税込) ※鹿児島日英協会会員は無料

上映後、ご希望の方は交流会にご参加ください(参加費別途実費)

交流会場所: マルヤガーデンズ7Fルーフガーデンレストラン
※コーヒーなど飲み物400～500円(税込)程度。

1947年、独立前後、国境を隔めたインドを舞台にした感動的な人間ドラマが誕生!

監督自身のファミリー・ヒストリーが重なる感動の人間ドラマが誕生!

1947年、インド返還のため最後のイギリス総督に就任したマウントバッテン卿一家と500人の使用人の住む家では、歴史を動かそうと奔走する人々がいた!

お申込先 jbskagoshima@yahoo.co.jp(事務局) まで

①参加希望者お名前②携帯番号③交流会参加の有無、をご明記ください。

※お席は39席となりますので、先着順で満席になり次第締め切りとします。

1～2ページ目にも記載がありますが、本年度初の試みとして協会主催で英国映画鑑賞会を開催いたしました。マルヤガーデンズさんの7階のシアター「ガーデンズシネマ」を貸し切りで『英国総督最後の家』の上映会をいたしました。内容もインドと英国に関わる素晴らしい内容でした。映画上映後は希望者で交流会を実施し、映画の内容などで語り合い、大変有意義な時間を過ごされていました。

(事務局 鶴田悠里子)



④ 本年度のイベント予定

1. 協会主催 特別講演会 (参加無料)

日 時：2019年3月21日(木) 17時～

場 所：ホテル・レクストン鹿児島(鹿児島市山之口町 4-20)

講 師：草光 俊雄 様

テーマ：『ブレクシットと英欧関係～英国と欧州との歴史的交流を再考する～』

2. 青年部主催 Pub Quiz イベント

日 時：2019年3月23日(土) 19時～

場 所：BIG BEN (鹿児島市東千石町 8-23-B1)

参加費：2,500円(税込)

3. 協会主催 第3回エッセイコンテスト・・・夏ごろ実施の予定(別途お知らせします)

4. 青年部主催 Bimonthly 英国研究会・・・9月までに2～3回開催の予定(未定)

※そのほか、青年部主催のイベントを計画中です。楽しみにお待ちください。

⑤ イギリスひとくちメモ

ロンドンのアンティーク・マーケット



Portobello Market の店先に並ぶシルバーや陶磁器

イギリスには古き良きものを愛するアンティーク愛好家が多い。どんな小さな街にもたいていは1～2軒の antique shop があり、BBC の Antiques Roadshow は 40 年を超える長寿番組だ。

ロンドンで最大の規模を誇るのは Portobello Market。シルバーや陶磁器等のアンティークだけでなく雑貨や古着、野菜・果物、各国料理など 1000 店以上の stall (露店) が並ぶ。上品でハイセンスなアンティーク・ショップが並ぶのは地下鉄 Angel 駅近くの Camden Passage。「マイフェア・レディー」の舞台としても知られる Covent Garden の Jubilee Market にもシルバー製品、アクセサリ等が並ぶ。Church Street の Alfies Antique Market は約 200 の小さな店舗の入るインドア・マーケットで玄人好み。

ロンドンには他にもいくつものアンティーク・マーケットがある。是非とも足を運んでいただきたいものだ。

(文責：理事 酒瀬川純行)

★鹿児島日英協会 URL :

<http://jbsk.jp/>



★鹿児島日英協会青年部 Facebook :

[Japan British Society of
Kagoshima Youth Division]



【鹿児島日英協会所在地】

〒892-0871

鹿児島市吉野町9700-1 (株式会社島津興業内)

TEL : 099-247-7000 (代表)

FAX : 099-247-9539

Ema i l : jbskagoshima@yahoo.co.jp